

## 資料館長あいさつ

### 貴重な歴史資料の保存と活用 —— 大学の教育・研究の発展と社会への貢献

資料館長 田中 重徳

卓越極まる資料館長として平成13年度から2期4年間務められた笠井純一先生の後任の命を賜り、本年4月より資料館長に就任しました。平成16年4月1日から国立大学は独立法人組織となり、笠井純一先生の多大極まるご尽力に感謝致し、立派な学識と崇高な見識と考慮を尊敬致しております。そして、委員と研究員・客員研究員の先生方と実務を担当されておられる在田則子氏と田嶋万希子氏、事務担当の皆様にも感謝致します。

金沢大学資料館は学内共同利用施設として、学内の学術研究資料を系統的に収集、整理及び保存し、教育研究に資すること、そしてその目的達成の業務として(1)資料の収集、整理及び保存、(2)研究会、講演会等の開催、(3)他機関との相互交流、(4)資料の展示などが定められております。

本学工学部は本年8月から9月における移

転進行によって、全ての教育・研究科が小立野から角間に移ることになります。これまで、工学部長尾田十八教授、各科の教授をはじめとする教員と技術職員と事務職員、そして事務部の皆様の支援と尽力を賜り、貴重極まる資料を数多く収集致すことが可能になりました。今年度の資料館特別展と公開講演は当該資料をも含めて、偉大な工学資料を活用させて頂いて行う予定であります。

価値極まる資料と直に接する観察者は感激と活発な思考回路にて自信に満ちた知識を修得し、理解度を著しく高めます。更には、その後において数次に接することにより、観察と理解と考察の度合いを一段と発展させます。

貴重資料の“百聞は一見に如かず”は育英にとって極めて重要であります。他機関との連携はこの意義でも大切であると思えます。

(大学院医学系研究科脳情報回路学 教授)

#### —— 医学部記念館所蔵資料から ——

#### 芝蘭堂新元會図、通称オランダ正月(複製)(表紙写真)

寺畑 喜朔

旧記念館廊下の座敷にかけられていた大幅(123×241糎)でかつて旧記念館を活用した学生らには思い出される軸である。この軸は旧記念館の取り壊しの際、片付けられ、以来所在が不明であったが発見されたので、昭和62年(1987)から記念館に飾る。

旧記念館は、金沢医学専門学校創設25周年に建設され、大正5年(1916)10月28日に盛大に開館された。この軸の正式名称は「芝蘭堂新元會図」で、開館当日、第一外科の下平用彩教授(十全会理事)が寄贈したもので、所蔵者大槻家が明治35年(1902)に複製し頒布した。原画が早稲田大学に所蔵されているが複製軸の現存は珍重である。

「北陸における近代医学の源流」より転載  
(金沢医科大学名誉教授)